

授業者ブロックから

- 仮説1 児童がなじみのある1 by 1に、2周目には質問を追加して行った。慣れて安心して取り組める「疑似的な言語活動」の部分と、どんな質問がくるかわからない、よく聞かなくてはならない、定型のやりとりではない「思考・判断・表現を要する言語活動」の部分を設定した。
- 仮説2 前半のSmall talk①と後半のActivityのペアワークで、話題のみ提示し、雑談的なやりとりを行う場面を設定した。こういう表現が使えるという例を示せば、児童はより安心して取り組むことができると考えた。

授業者反省

- ・Smalltalk①では「I went to～」などが言えていた。
- ・「My best memory is～」の文意は理解できていたが、緊張も見られた。
- ・1 by 1ではこちらの指示が薄く、reaction不足だった部分があった。
- ・Activityがペア1組で終わってしまった、時間配分不足であった。
- ・話型があると安心して話せると考え、既習の表現を掲示した。
- ・Reactionのパターンを用意していたが、掲示する余裕がなかった。

協議

- ・振り返りカードの後ろを使って、Reaction反応できていた。
- ・「What」「Where」が出てきていた。5年でも系統性をもって教えたい。
- ・クラスの雰囲気がよく、児童同士の教え合いができていた。柔らかい雰囲気で展開していた。やりとりの基盤は学級経営。そのような雰囲気があるとActivityの学習も深まる。
- ・助け合いながら発言できていた。
- ・授業の流れが分かりやすく、表現を何度もくり返すことで、児童が慣れて安心して活動できていた。
- ・指導案に書かれていない部分の表現、戸惑っている児童に例をたくさん挙げて気付かせるなど、教師の発話が多いと、「こういうことかな？」と児童が推測して考えられる。
- ・「My best memory is～」の表現には以前も少し触れている。本時で更に踏み込んだやりとりができるとよかった。時間が足りなかったことが悔やまれる。「What」「Where」を使った既習表現を例に挙げ、「こういう言い方ができるよ！」と例示できれば、児童の伝えたい話したい気持ちに、より踏み込めたのではないかな。
- ・国際理解ルームの掲示にreactionを追加するとよい。児童は文字と音の繋がりに慣れてきている。つづりを見て安心して表現している児童も少なくない実感がある。目に触れるところがあると安心してできる。
- ・学校行事を英語で答えられるまで、児童も教師もねばって、よく答えようとしていた。
- ・Small talk①で「I stay home.」と答えた児童と、それを聞いて真似して表現できている児童がいた。更に「What did you enjoy?」と踏み込んだ質問ができると、「I enjoyed～」の表現につなげることができたように感じた。
- ・「What is your best memory?」「My best memory is～」をActivityの前に板書していた。1 by 1でDianne先生とのやりとりの時に掲示してもよかったのではないかな。
- ・Let's singとChantは、単元の中盤では速度を早くし、英語のリズムに耳を馴染ませ、本時では速

度をゆっくりにすることで、本単元で児童が学習してきた表現が「わかる」「歌える」の実感がもてて良かった。

- Small talk①で「先週末に何していたかな」と日本語で初めから言うのではなく、「What did you do last weekend?」「Sunday, Monday, Tuesday, … 『Week』」「Saturday, Sunday. 『Weekend』」と児童が知っている表現に伝えて伝え、推測させるとよい。
- 1by1 で「I see～」と言った児童に対して「I saw.」と返すのではなく、「Oh, You saw～」と正しい表現に直して返してあげるとよい。聞いているうちに気付かせたい。
- 『一番の思い出は何?』を英語で何と聞く?と児童に問いかけた際に「What is best memory?」と答えた場面で、「ここに your が入るね」と板書していた。書く前に「足りない言葉があるからもう一度 Dianne 先生が言うのを聞いてみよう」と投げかけ、推測させたい。または「_ _ _ _ ?」言葉が入る部分を板書で示し、聞こえた言葉を児童に発表させ、表現を一緒に考えたい。